

元「しらせ」乗員川崎地区募集相談員会会長・小川氏「防衛大臣感謝状」受賞

神奈川県地方協力本部川崎地区自衛官募集相談員会会長・小川 祐司（おがわ ゆうじ）氏は、自衛官募集功勞により「平成29年度防衛大臣感謝状」を受賞された。

小川会長は、昭和63年横須賀教育隊（第2061期）に入隊し、第1護衛隊群第43護衛隊護衛艦「はるゆき」その後、砕氷艦「しらせ」乗員として第31次南極地域観測協力行動に参加した。家業を継ぐため、任期満了で退職したからは、平成9年に自衛官募集相談員として委嘱されたからは、地域住民や企業、団体等に対して自衛隊への理解促進に努めている。特に、川崎出張所のイベント参加や募集広報活動を主動的に支援し、昨年10月に実施された「第44回川崎みなと祭り」では、関係各所を奔走し川崎港に初めてとなる護衛艦入港に尽力した。また、自らの海上自衛隊での勤務経験を活かして講演を行うなど自衛官の募集広報と防衛基盤の育成に多大な貢献をしている。

今回は、神奈川県地方協力本部長表彰、横須賀地方総監表彰、東部方面総監表彰、海上幕僚長表彰に続く5度目の感謝状受賞。小野寺五典防衛大臣は「ありがとうございます。これからは、小川会長にもよろしくお願ひします」と話し、受賞者席の小川会長に感謝状を手渡した。

小川会長は「川崎市は長く革新市政が続く、自分が現職の頃は自衛隊を受け入れて貰える状態ではありませんでした。しかし、現在の川崎市は自衛隊と積極的に係る姿勢へと変わり、市民の自衛隊に対する意識も変わって来ていると実感しています。多くの同期が現在も国防という最前線で活躍しています。これからも同期に負けないよう隊員の募集・自衛隊の認知度の向上に努めていきたい」と意気込みを話した。

川崎出張所は、小川会長はとも頼もしい存在と話し「基地や駐屯地のない川崎地区において自衛隊の認知度向上と募集に貢献して頂いている小川会長のこれまでの功績に感謝するとともに、今後も海上自衛官としての経験と地域のつながりを生かした募集広報活動の指導をお願いしたい」としている。



小野寺防衛大臣から表彰を受ける相談員小川祐司氏（右）

地本用語の「つなぎ」とは・・・

新入隊員の募集を行う地方協力本部では、受験・入隊の意志を維持し、向上させるための広報活動を「つなぎ広報」と言う。広報官が受験予定者や入隊予定者に部隊見学や体験搭乗を案内することが代表的なものだが、対象者の目線より効果的な方法はないか日々試行錯誤している。

神奈川県地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山 海尉）は12月22日（金）、昨春に当募集案内所を通じて入隊し、現在は陸自第1空挺団通信中隊指揮所通信小隊（習志野）に勤務する山口 雄大（やまぐち ゆうだい）1士を迎え、自衛官候補生採用試験に合格し、入隊を控える厚木市在住の高校生和賀 晴輝（わがはるき）君との懇談を実施した。

山口1士は、空挺団の魅力や仕事のやりがい、教育隊での生活や部隊勤務でのアドバイスなどを伝えていた。話を聞いた和賀君は「空挺団に興味を持ちました。山口さんが熱意をもって仕事をしているのが分かり、私もそのように働きたいと思いました。また、駐屯地にはクラブ活動もあるようなので入隊しても大好きなサッカーを続けられます」と話し、入隊に向けてより意欲が増した様子だった。

初対面の二人が楽しそうに懇談する様子を見た広報官は「私と話す時とは違い、緊張せず説明に聞き入り、積極的に質問していた。入隊予定者と年齢が近く、なにより現場の声を伝えられる隊員が対象者の心をつかむのかもしれない。今後のつなぎ広報の参考にしたい」と話した。

山口1士は「和賀君が不安にならないよう、丁寧に話す事を心掛けました」と話していた。

厚木募集案内所は「より効果的な「つなぎ広報」を追求し、入隊予定者に自衛隊に対する理解を深めてもらい、不安を払拭して入隊できるよう努力していく」としている。



陸自第1空挺団通信中隊山口 雄大1士（左）と懇談する入隊予定者（右）

「第22回震災対策技術展・横浜」で自衛隊をPR

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 山野太資 1等海佐）は、2月8日（木）、9日（金）の2日間、パシフィコ横浜で開催された「第22回震災対策技術展・横浜」においてブースを設置し、自衛隊をPRした。

本技術展は、大規模震災やゲリラ豪雨などの自然災害時の安全確保のための最新製品や技術、サービスが一堂に会する日本最大級の専門技術見本市で、会場には200社を超える参加企業のブースが並び、製品の説明や実演、専門家による講演会などが行われ、2日間で約18,600人が来場した。

神奈川県本は、陸自久里浜駐屯地中央野外通信群第101搬送通信大隊の支援を受け、野外炊具及び31/2トラックを展示するとともに、戦闘糧食の展示や災害派遣活動のDVD放映を実施し、多くの来場者たちの注目を集めた。

野外炊具を見学した来場者は「災害派遣の現場で見たことがある」「走行中も食事を作ることができるのですか」などと質問し、担当者は丁寧に答えていた。

戦闘糧食の展示に足を止めた災害対策関係者は「うちの自治体にもこういうのがあったらいいね」「ご飯とおかずがセットになった備蓄食料は便利だ」などと話し、また「一定期間この食事を食べて、何か気になったことなどないですか」などの質問が続くなど、来場者の防災意識の高さと自衛隊への関心が伺えた。

神奈川県本は「今後も積極的に広報活動を実施し、多くの方々に自衛隊の活動を理解していただくよう努めていく」としている。



来場者の注目を集める野外炊具と戦闘糧食